



# れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112(代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / 発行日 2015年9月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

## 腹膜透析と地域包括ケア

～高齢者の腹膜透析が地域医療で存続!!～



地域医療連携室部長 大田 聡  
腎臓内科部長

日頃より地域連携にご理解、ご協力を頂き有り難うございます。平成21年に地域連携室部長を仰せつかってから、6年余りが経過しました。この間医療をとりまく環境は少しずつ変化してきています。私が専門としている腎臓内科でも、若年者に多い腎炎、ネフローゼが影を潜め、中高年の方に多い糖尿病性腎症や腎硬化症が治療の主体となってきています。これらの疾患は糖尿病や高血圧、高齢を背景とし、動脈硬化性疾患を始めとした様々な全身の合併症を伴っています。すなわち、腎臓専門医にとっても全身を管理することがより強く要求される時代となっています。この点から、日頃ホームドクターとして地域で患者さんを全人的に診療されているかかりつけの先生方との連携が、より大きな意味を持ってきたと言えると思います。一方で、CKDの治療が十分奏効せず、末期腎不全となり新たに腎代替療法が必要となる患者さんも全国で毎年3万9千人以上いらっしゃいます。腎代替療法には腎移植、血液透析、腹膜透析の3つがあり欧米ではおおおよそれぞれ20%、70%、10%の比率で適用されていますが、我が国では血液透析が94%と極端に多く、腹膜透析、腎移植はそれぞれ3%程度とアンバランスな状況です。また、透析患者さんの平均導入年齢は、69歳と年々高齢化しています。動脈硬化の進展した高齢者が、200ml/分といった大量の血液を体外に循環させる血液透析には医学的に向かないことは容易に想像できます。この点腹膜透析は体外循環を必要とせず、24時間の連続的な治療であり、高齢者に向いている治療で

す。実際、血液透析と腹膜透析の両方を経験された患者さんにお聞きするとほとんどの方が、腹膜透析が身体的に楽だとおっしゃいます。まだ議論もあるところですが、少なくとも透析導入から3年程度は、腹膜透析の方が血液透析より生命予後がよいとの成績も海外からいくつか報告されています。以前の若い方に多い腎炎が透析の原因の主体を占めていた頃は、通院頻度が圧倒的に少ない腹膜透析が復職の目的で適用されていましたが、近年では高齢者の腹膜透析が、QOL維持を目的として導入されています。血液透析は患者さんに週3回、5時間程度病院にいていただく必要がありますが、腹膜透析は2週に1回、わずか30分程度の診察のみです。すなわち、高齢者が住み慣れた地域でより長い時間自分らしく生活できるのです。もし腹膜透析にご興味をお持ちの先生がいらっしゃいましたら、ぜひ当院にお声掛けください。腹膜透析の治療原理はごくシンプルなものですし、腹膜炎やカテーテルトラブル等の合併症への対処は、当院が24時間体制でバックアップを行います。長年CKDとしてかかりつけの先生にかかっていた患者さんが腹膜透析導入後にも同じ先生にみてもらえるとすれば、大きな安心感につながると思います。全国には基幹病院とかかりつけ医や介護施設が腹膜透析を介して連携を行っている先進的な地域もあると聞きます。地域包括ケアという概念が提唱されて久しいかと思いますが、透析療法の分野でも腹膜透析はこの概念の実現が可能な治療法と考えます。

## 1. 地域連携・開放型病床症例検討会

日時：10月13日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

### 1) ミニレクチャー：「尿路結石症について」

泌尿器科 高瀬 育和

尿路結石は上部尿路結石と下部尿路結石に大別される。上部尿路結石は50年前と比べて罹患率は約3倍に増加している。最近の10年間では特に増加しており、診断技術の改善による診断率の向上や健診等の普及で発見率が増加していることもあるが、食生活や生活様式の欧米化や高齢化などが関わっていると考えられる。また、諸外国の疫学調査でも尿路結石の増加が報告されていることから、地球温暖化等の環境変化の関与も示唆される。治療に関しては、特に上部尿路結石では、開放手術はほとんど行われなくなり、体外衝撃波結

石破碎術や内視鏡手術が主に行われている。特に、最近の軟性尿管鏡による治療手技が確立されて治療法の選択肢が広がった。尿路結石は治療後も再発することが多く、飲水指導や食事指導も含めた再発予防も重要と考えられる。高齢化社会が急激に進んでいる現在は、糖尿病などの基礎疾患を有することが多く、結石嵌頓による上部尿路閉塞に感染を伴う結石性腎盂腎炎では、重症化することも多い。今後さらにこのような結石に合併する重篤な疾患が増えると予想される。

### 2) 症例検討（2例）

#### ① 『血糖コントロール不良を契機に診断された膵神経内分泌腫瘍（pNET）の1切除例』

（紹介医）よしだ医院 吉田 誠先生 外科 八木 康道

#### ② 『マムシ咬傷の1例』

小児科 坂田 奈緒

予告

日時：11月10日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

### 1) ミニレクチャー：『睡眠時無呼吸症候群について』

循環器内科 清川 裕明

### 2) 症例検討 消化器内科・精神科の2例を予定しています。

## 2. 内科 CPC

日時：10月13日（火）17：30～

場所：医局カンファレンス室

## 3. 糖尿病研究会定例学習会

日時：10月8日（木）17：45～18：30

場所：1階看護外来

○テーマ「食事療法」

○講師 管理栄養士 稲葉 冴衣子

## 4. 富山地域リハビリテーション研修会

日時：10月6日（火）18：00～19：00

（受付17:30～）

場所：講堂

○テーマ「骨粗鬆症について」

○講師 産婦人科医師 長谷川 徹

## 5. 緩和ケア講演会・相談会

（※詳細は「れんけいと支援8月号」2ページを参照ください。）

日時：10月7日（水）14：00～16：00

場所：講堂

① 14：00～15：00 講演会

② 15：00～16：00 緩和ケアに関する相談

## 6. 感染予防対策学習会

日時：10月8日（木）17：30～18：15

10月19日（月）17：30～18：15

（両日共同内容の研修です）

場所：講堂

○テーマ「培養検査の流れと検査結果の活用」

○講師 感染制御認定微生物検査技師 中村 政雄

## 7. 医療機器研修会

日時：10月9日（金）17：45～18：15

場所：集団指導室

○テーマ「ネブライザー療法の薬剤特性と留意点」

○講師 臨床工学技士 福島 望

## 8. 乳腺術後症例検討会

※乳腺エコーに携わる検査技師・放射線技師、乳腺外科医師、病理医師、放射線科医師、院外参加希望の方のご参加お待ちしております。

日時：10月8日（木）16：00～17：00

場所：2階 病理検査室

○内容 前々月の手術症例の病理組織結果、エコー所見、マンモグラフィー所見の比較検討

※日時が変更になる場合がありますので、参加希望の方は事前に病理検査室へご連絡ください。

（富山市民病院 TEL076-422-1112（代表）内線2248）

## 9. 褥瘡対策学習会

日時：10月23日（金）17：45～

場所：集団指導室

○テーマ「褥瘡ケア 消毒と洗浄」

○講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 青木 かずみ

## 10. NST 学習会

日時：10月26日（月）18：00～19：00

場所：講堂

○テーマ「肺炎を起こしやすい高齢者の特徴と栄養管理」

○講師 内科医師 山本 宏樹

## 11. 看護研修

### 《衛星研修 S-QUE E ナース》

日時：10月7日（水）17：40～18：40

場所：集団指導室

○テーマ：最新呼吸療法のエッセンスシリーズ  
～気管吸引と気道ケア

日時：10月21日（水）17：40～18：40

場所：集団指導室

○テーマ：正しく理解しよう！酸素療法



## 当院の特色やスタッフを紹介いたします。

### 医療マネジメント室の紹介

医療マネジメント室は外からは見えない組織です。医療マネジメント室は医療法改正、病院改革、電子カルテとDPCなど変化する環境に対応すべく平成23年に2名体制でスタートしました。

当初はDPC分析やクリニカルパス管理を主たる業務とし、その他、事務経営企画の医療の質(QI)指標のデータ作成などの病院分析資料作成を行っていました。

平成24年の診療報酬改定を受け、より様々な観点からの分析や見方、見せ方が重要になり、収支関係全般の分析として看護部、医事課、医療情報管理室、事務経営企画も参加し、新たに栄養サポートチーム(NST)と医療材料企画専門員として2名増員されました。

その後、バランススコアカード(BSC)管理支援、検査・臨床工学関係、医療機器購入と保守、医薬品関係の専



門員として4名増員され、平成27年には患者サービス、院内人材の教育、育成専門員として1名増員し、合計9名で活動しています。

各員はそれぞれの専門分野で経験、習得した知識を持って週1で分析、討論を行っており、職員の働く環境整備、専門的資料作成、経営に資する提案を念頭にバックヤードで努力しています。

## 医師不在のお知らせ ※外来担当日の休診のみ掲載

10月分

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	中村	9日	呼吸器・血管外科	瀬川	1日
	清川	5日、6日、13日、28日、29日	整形外科・	澤口	23日、27日、30日
	大田	23日	関節再建外科	坂越	1日、2日、30日
	打越	15日	形成外科	置塩	8日、9日
	清水	16日	脳神経外科	中尾	14日～16日
	水野	9日、23日、30日	産婦人科	長谷川	29日、30日
	町谷	1日	眼科	山田	22日、23日
	小川	2日、26日	麻酔科	五十嵐	21日～23日
外科・消化器外科	泉	15日		池田	9日
乳腺外科	吉川	8日	歯科口腔外科	寺島	7日
	寺田	26日		高橋	1日
	佐々木	9日	小児科	橋本	8日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

### 編集後記

9月に入り、急に気温が下がり、少し肌寒くなりました。日が落ちるのも随分早くなり、どんどん秋の空気を感じています。食欲、芸術、スポーツ、読書など様々な秋の魅力がありますが、皆さんはどんな秋が楽しみですか？年中運動好きの私は、何か他のことを始めてみようかと模索中です。

さて、4月から精神デイケア科で勤務を始め、早半年が経とうとしています。自分はこの半年で何か成長できているのだろうか考えると、頭が痛くなりますが、初心と学びの姿勢を忘れずに、これからも日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。

精神デイケア科 野田 玲菜



病院ボランティア  
篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154  
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp